

令和4年度
事業報告書
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

社会福祉法人あいあい福祉会

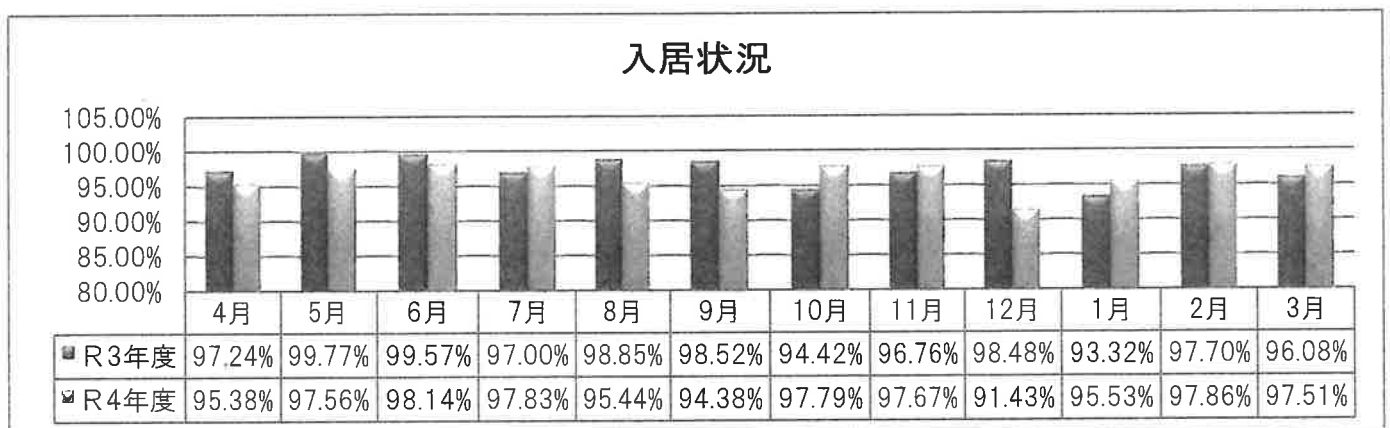
特別養護老人ホーム みず和の郷
ショートステイ みず和の郷
居宅介護支援事業所 みず和の郷

《支援部門》

1、特養入所状況

	入居者（人）			延べ日数	居室稼働率		入居者（人）			合計	居室稼働率
	入居者数	入居	退居				入居者数	入居	退居		
4月	70	3	2	2,003	95.38%	10月	69	3	2	2,122	97.79%
5月	69	1	2	2,117	97.56%	11月	70	2	1	2,051	97.67%
6月	70	2	1	2,061	98.14%	12月	70	4	4	1,984	91.43%
7月	70	0	0	2,123	97.83%	1月	70	2	2	2,073	95.53%
8月	70	2	2	2,071	95.44%	2月	70	1	1	1,918	97.86%
9月	70	2	4	1,982	94.38%	3月	69	1	2	2,116	97.51%
合 計	令和3年度 月平均稼働率 97.31%										
	令和4年度 月平均稼働率 96.38%										

- ・前年度と比較し稼働率は0.93%減少。8月と12月に施設内で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、入院者が複数発生したことや空室へ新たな入居者を受け入れるのを止めたことが大きく影響している。また、持病が回復せず病院での治療が長期化することで施設を退所されるケースも増えたためと考えられる。

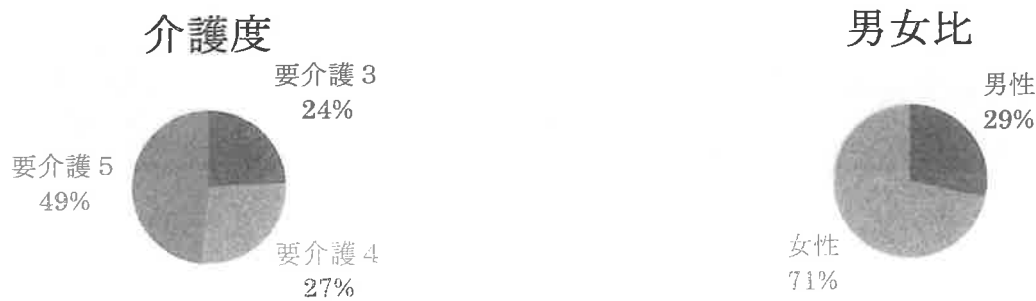


入院者数・延べ日数

R3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	3	1	1	3	4	3	6	3	5	7	3	6	45
延日数	46	1	1	57	25	28	118	54	29	137	41	60	597
R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	5	2	3	5	6	3	2	7	7	5	2	53
延日数	82	36	23	47	117	101	24	39	104	82	35	44	734

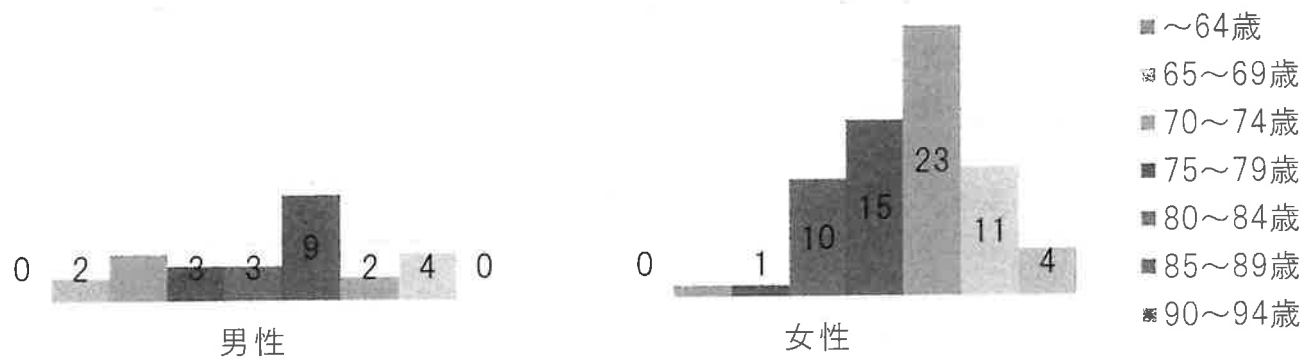
- ・前年度と比較し入院人数は8人増加、入院日数も137日増加している。病院での積極的な治療を希望される家族が増えたことや、医療依存度の高い方や入居者の重度化により、入院治療が長期間に渡るケースが増えたことが要因として考えられる。

2、在籍者別年齢・要介護度等



平均介護度 4.26 (男性 4.02 、女性 4.36)

年齢別男女比



平均年齢 88.1 歳 (男性 83.4 歳 、女性 90.1 歳) (最高 101 歳 、最低 65 歳)

・ 昨年に比べ男性がやや増加したことで、平均年齢はやや低下。介護度に大きな変化は見られなかった。

3、在所期間入所者状況 (退所者含む) (令和 5 年 3 月 31 日現在)

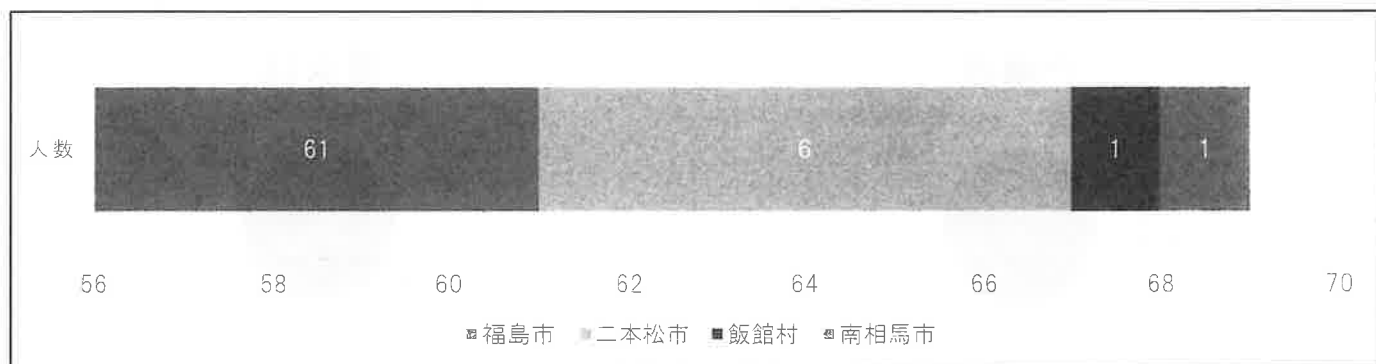
	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上	合計
男性	12	5	7	2	1	0	27
女性	12	18	19	13	2	1	65
合計	24	23	26	15	3	1	92
割合 (%)	26.1%	25.0%	28.2%	16.3%	3.3%	1.1%	100%

平均在所日数	男性	女性
3 年 6 ヲ月	2 年 8 ヲ月	3 年 10 ヲ月
最高在所日数	14 年 1 ヲ月	16 年 5 ヲ月

・ 平均在所日数は前年度と同様となっているが、最高在所日数が伸びることで、必然的に年齢や介護度は上がり、重度寝たきりで介護が必要な方が増えている。

4、保険者（R5. 3. 31 時点）

（人）



5、令和4年度特養活動報告

I. 介護支援専門員

- ・8月と12月に施設内で新型コロナウイルス感染症が蔓延したことや、医療依存度の高いご入居者の長期入院が増えたことが主な要因となり、稼働率がわずかに減少したが、日頃から情報収集とご入居者の心身状態の把握に努め、モニタリングやカンファレンス等を通してリスクマネジメントへもアプローチしながら、各専門職の特性を活かし協働して解決に取り組めるよう調整を図った。また、ご入居者やご家族の意向を汲み取りながら、ご入居者の心身状態に合ったより個別性の高いケアプランの立案と質の高いサービス提供に努めた。
- ・入居時や退院時、体調変化に応じ迅速にカンファレンスが開催できるよう調整し、各部門が混乱なくスムーズに対応ができるよう努めた。
- ・看取り対象者は月平均12名と施設での看取り介護を望むご家族も多く、ご入居者とそのご家族が安心して施設で最期の時間を過ごすことができるよう、よりこまやかなカンファレンスの開催や看取り委員会等を通して情報の共有と調整を図り、多職種協働による質の高いサービス提供に努めた。また、退所後にはカンファレンスを開催し、評価すべき点や改善点を振り返り今後の看取り介護へ活かすことができるよう努めた。
- ・コロナ禍、ご家族とご入居者が直接触れ合う機会が難しい中で、離れていながらもご入居者にご家族の心の距離が近づき、ご家族にもできる限り安心していただけるよう、オンライン面会や窓越し面会を勧めるとともに、ご利用者の生活状況や状態変化をタイムリーにご家族へ報告し、ご家族の思いや要望の把握、信頼関係の構築に努めた。
- ・地域及び居宅介護支援事業所等への広報活動を進めるとともに、当法人の居宅介護支援事業所や短期入所生活介護事業所（ショートステイ）と連携を図りながら、特別養護老人ホームへの入所待機者の増加へ努めた。

II. 生活相談員（特別養護老人ホーム）

年度	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4
居室稼働率%	97.07	96.89	98.27	97.31	96.38
入所者数	19	24	12	12	23
退所者数	18	26	11	12	23
平均介護度	4.04	4.08	4.12	4.29	4.26
入院実人数	40	46	21	45	53
入院延日数	640	587	393	597	734

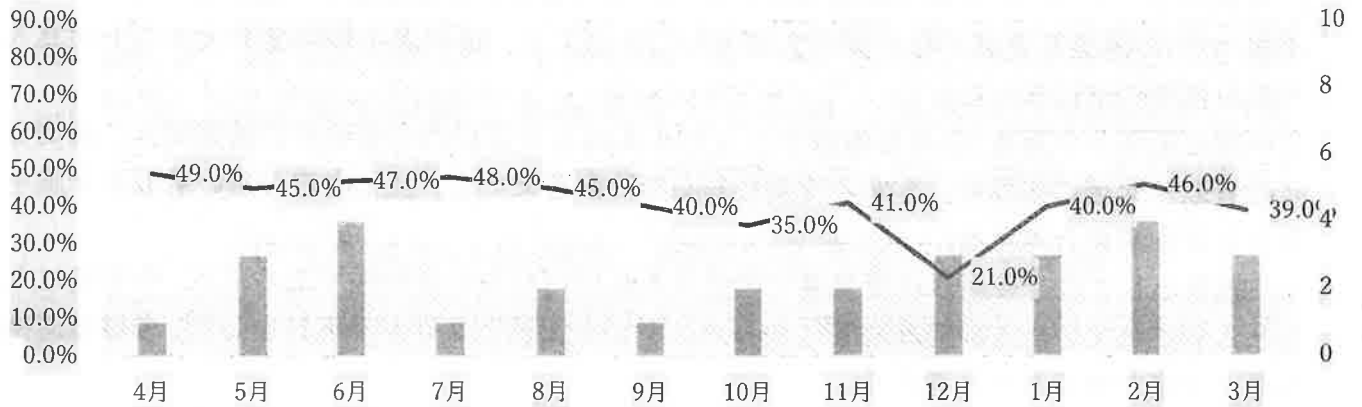
- ・昨年度と比較し、ご入居者の超高齢化やご家族が病院での治療を望まれる方の増加、また施設で新型コロナウイルス感染症蔓延により入院者が増えたことにより、毎月の入院実人数も増加、さらに病状回復しないため長期入院後退所になった方も増加し居室稼働率の減少につながった。
- ・新型コロナウイルス感染症蔓延からの退所も増えたことにより、退所者が昨年度を大きく上回り入退所者が例年の倍になった。
- ・今年度は看取り介護者 12 名を看取り、うち 6 名は 3 ヶ月以内の看取り介護期間と、適切な時期に看取り介護に移行し、本来の特養としての役割を果たし、且つ内容の濃い看取り介護をすることが出来たと考える。
- ・本来施設としては今後経鼻経管栄養での受け入れは行わない方向性であったが、今年度はもともと入居されていた方が経鼻経管になったことから柔軟に 2 件お受入れをした。多職種連携が円滑に出来た例であると考え。
- ・コロナ禍ではあったが福祉作品展の見学・ジェラートを食べる外出を支援部門が率先して行い、ご入居者の気分転換になっただけでなく、ご家族からの感謝のお言葉を 3 件頂き、外出の大切さを改めて考えられる機会となった。
- ・オンライン面会は画期的な取り組みと思っていたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延により面会対応を長期間中止せざるを得なくされた。非常時こそご入居者、ご家族共に不安に思っておられるため今後どのように対応していくかが課題である。さらに、面会(オンライン・窓越し問わず)は決まったご家族のみとなっており、コロナ禍で足が遠のいてしまったご家族をどう施設に面会に来ていただくかも重要な課題と考える。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、地域行事への参加やボランティアと介護等体験実習生の受け入れが予定通りに実施できなかった。新型コロナウイルスが 5 類に引き下げられることから来年度は積極的に活動していきたい。

6、ショートステイ実績、活動報告

月 理由別		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
利用者 数	男	11	9	15	10	8	9	10	10	4	3	8	11	108
	女	14	18	20	18	17	16	15	19	14	17	20	15	203
延べ 利用 日数	支 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支 2	0	0	9	0	3	0	0	0	0	0	0	0	9
	1	27	39	56	38	35	35	34	42	14	42	46	41	449
	2	49	44	47	51	53	55	43	42	30	55	66	36	571
	3	108	113	87	109	102	68	62	86	61	82	64	54	996
	4	70	54	49	43	33	39	41	44	21	50	66	39	549
	5	39	27	32	55	54	41	32	33	6	20	18	49	406
	計	293	277	280	296	277	238	212	247	132	249	260	219	2980
稼働率	%	48.8	44.7	46.7	47.7	44.7	39.7	35.3	41.2	21.3	40.2	46.4	38.7	41.3
R3 年度	%	56.5	58.9	44.3	54.2	65.2	69.5	47.1	50.0	46.1	44.5	32.3	42.1	51.0
男性平均 81.0 歳 女性平均 90.3 歳 (全体平均 85.7 歳) 最高年齢 92 歳 最低年齢 66 歳														

※ 1 ユニット休止中

令和4年度 ショート稼働率及び新規利用者数



【居宅介護支援事業所名】	(人数)	(定期)			
居宅介護支援事業所みず和の郷	12	2	あだたら荘指定居宅介護支援事業所	1	0
ライフ・タイム福島居宅介護支援事業所	7	1	エルダーランド居宅介護支援センター	1	0
あづま脳外居宅介護支援事業所	4	3	介護支援事業所さわやかアイリス	1	0
ふくしま訪問看護ケアプランセンター	4	3	居宅介護支援事業所なごみ	1	0
リブレ松川居宅介護支援事業所	4	2	居宅介護支援センター グリーンライト	1	0
指定居宅介護支援事業所 ひまわり苑	4	0	居宅支援事業所にほんまつ・あだち	1	0
つどい支援事業所 福島	3	1	指定居宅介護支援事業所あだたら	2	0
土湯宝生園指定居宅介護支援事業所	3	0	すかわ指定居宅介護支援事業所	1	0
指定居宅介護支援センター松陵	2	0	にじのまち指定居宅介護支援事業所	1	0
居宅介護支援事業所 いずみの郷	2	0	二本松いわしろ紀行指定居宅介護支援事業所	1	0
まごころケアサービス二本松	2	0	ハッピー愛ランド	1	0
アグリホーム指定居宅介護支援事業所	1	1	優心指定居宅介護支援事業所	1	0
居宅介護支援事業所はなしのぶ	1	1	よるこび介護支援センター	2	0
ケアプランセンター小倉寺	1	1			
コパン居宅介護支援事業所	1	1	【地域包括支援センター名】		
			松川地域包括支援センター	1	0

・新型コロナウイルス感染症の対応として職員は当然の事、ご利用者・ご家族へもより一層体調管理の働きかけ・情報共有を徹底し、今後の感染予防に努めた。

しかしながら、2度のクラスターによりショートステイ受入れ中止を余儀なくされた。

・苦情に対しては、1年を通し大きなクレームなく対応できた。

・関係機関への営業などから一定の新規利用者の確保には繋がったものの、新規リピーターの確保ができず、一回のご利用で終了してしまい次に繋がらないケースが多かった。

このことに加え、長くご利用頂いているご利用者は介助の重度化に伴い特養入所や老健等長期入所など他サービスへ移行し、利用離れしている状態となった。なぜ2回目の利用に繋がらないのかその問題点を多職種協働して見つけ改善していくことが今後の課題である。

今後は稼働率回復が図れるよう、他事業所に空床情報等を定期的に提供すると共に、緊急の受け入れについても、柔軟に対応して要望には真摯に誠意をもってスピーディーに対応していきたい。

《介護部門》

○しゃくなげユニット

4月	17日	誕生会	9月	19日	敬老会
5月	22日	母の日	11月	6日	秋祭り福祉作品展制作
6月	26日	誕生会、父の日	1月	2日	書初め
				29日	誕生会
7月	7日	七夕短冊作り	2月	3日	節分豆まき
	28日	紫陽花見学			
8月	14日	夏祭り	3月	12日	誕生会

《活動報告》

- 1、ケアプランの周知・認識に欠けた点があり、職員間で介護の方向性に相違があった。
- 2、ご入居者の嚥下状態や皮膚状態をはじめ、身体機能を細目に観察し、変化時は職員間での周知と、他部門へ情報共有を図ることができた。また改善へ向け、状態に合わせた対応が出来た。
- 3、整容は離床に合わせ、起床時に洗顔介助を徹底し出来ていたが、起床時に限らず、随時実施していく必要があった。
- 4、24時間シートの取り組みは毎月のユニット会議にて、誰の内容を見直しするか職員間で話し合いをしたが、居室担当者のみが取り組み、全員での意見を反映させることに欠けていた。変更点等の修正や改訂に手を加える面では不十分であった。
- 5、四季に応じた行事や誕生会を定期的の実施できたので、今後も継続して実施したい。行事の内容もご入居者が主体になるよう、プレゼントを渡す役割や、個々の出来る事に応じた役割を考え、ご入居者間の交流を図ることが出来た。
- 6、外出計画は、体力的な面やADLの面から、固定したご入居者に限られてしまっていた。

○しらかばユニット

4月	26日	誕生会	10月	17日	誕生会
5月	22日	母の日	11月	6日	秋祭り
6月	15日	父の日 誕生会	12月	25日	クリスマス会(忘年会)
7月	17日	誕生会	1月	11日	新年会
8月	14日	夏祭り	2月	3日	節分
9月	19日	敬老会	3月	3日	雛祭り

《活動報告》

- 1、ご入居者の生活スタイルや心身の状態、変化に対応し、安心して生活して頂く目標に対し、他職種連携やユニットからの情報発信力にやや不足が感じられた。
- 2、職員のスキルアップについて、コロナの対策として施設内研修が開催されず、資格に挑戦する職員も少なかった。
- 3、季節を感じて頂けるような取組や新しいことに挑戦する姿勢も不足し、行事がパターン化されてしまった。
- 4、清掃・環境整備について各居室担当に掃除等を分担したが、実施出来ない部屋が生じたため、各職員の意識付けを行い、行事等のない日曜日を利用してユニット全体で取り組んだ。

○さくらユニット

5月	15日 母の日 誕生会	11月	6日 秋祭り
6月	15日 父の日ドライブ	12月	25日 クリスマス会
8月	7日 隣ユニット合同納涼祭	1月	23日 誕生会
9月	19日 敬老会	2月	3日 豆まき 誕生会
		3月	3日 雛祭り（写真撮影）

《活動報告》

- 1、ご入居者のADLの変化や意思を尊重したケアの見直しは行えていたと思うが、共同生活の中での要望や思いを受け入れられていたとは言えず、今後も努力していく。
- 2、ユニット会議での意見交換は出来ていたと思うが、自発的な意見は少なかった。ユニットの問題に対して一人ひとりが取り組んでいけるよう努める。
- 3、適切な声掛けは行えていたと思うが、時間に追われたりした際に対応が雑になる場面もみられた。
- 4、申し送りノートやユニット会議などで情報共有に努めたが、統一したケアが出来ていない事もあった。また、記録も十分とは言えず、今後も意識していかなければならない。
新規の方の24Hシートの作成が出来ていなかった。既存の更新作業も出来ておらず、作成の意力が足りなかった。
- 5、毎月行事を実施して、季節感のあるご入居者主体の行事を実施しようと計画したが、主に誕生日会しか行われておらず、ご入所者が楽しめる行事を企画するのが課題である。
- 6、ユニット内の定期的な清掃は行えていたと思う。居室に関しては居室担当が行う事になっていたが自発的には行われず、意識づけが必要である。

○もみじユニット

4月	24日 誕生会	10月	30日 誕生会
5月	15日 母の日	11月	6日 秋祭り
6月	15日 父の日ドライブ	1月	29日 誕生会
8月	7日 隣ユニット合同納涼祭	2月	3日 節分
	21日 誕生会		
9月	19日 敬老会	3月	26日 誕生会

《活動報告》

- 1、一人ひとりの心身の変化や状況に合わせ、対応を変更したりと臨機応変に行っていたが職員間でのバラつきがあり、ケアの統一と言う点は不十分だった。ユニット会議の定期開催ができていなかったことも原因である。会議を有効活用し、職員間の意見交換、対応や方向性の統一に力を入れたい。
- 2、日頃からのコミュニケーション、丁寧な声掛けを心掛けてはいたが、業務中心となり十分とは言えなかった。馴れ合いから声掛けが雑になってしまうことも散見されたため、相手の立場になり、丁寧で、相手を尊重した声掛けをしていきたい。
- 3、互いに助け合いながら、サポートし合う姿勢がみられた。今後も継続したい。
- 4、日々の清掃は出来ていたが、共有スペースが主で、各居室内の整理整頓に関して不十分さがあった。居室担当を中心に責任を持ち清掃、整頓するよう、再度意識づけ、習慣づける。

- 5、誕生会以外の行事があまり開催できなかった。誕生会もいつも内容が同じくなってしまっているため、もっと工夫をしてより楽しんでもらえるものを考えていきたい。
- 6、24時間シートの作成が進まなかった。24時間シート作成にあたり、ご入居者の嗜好、要望についても再認識し、居室担当を中心とし少しずつでも着実に進めたい。
- 7、特変時の記録はあるが、途中で途切れてしまっていることがあり、経過がしっかり伝わる記録を残す必要がある。他部門からの連絡なども伝達不足で全員が把握していない事象もあった。口頭及び、申し送りノートへの記載、確認をしっかり行っていく。
また、自己の感情に左右されず、相手の意見や行動を尊重し、理解し合う必要がある。
- 8、自ら率先して新たな取組をする姿勢は見られなかった。呼びかけにより行うことはあったが、業務に追われ目が行き届いていないことが多く、先入観やこれまでのやり方に囚われない新しいものも考え、企画出来る様にしていきたい。

○けやきユニット

4月	10日	花見ドライブ	10月	17日	紅葉見学 誕生会
5月	15日	誕生会 母の日	11月	6日	秋祭り
6月	12日	父の日	12月	25日	クリスマス会
7月	10日	七夕 誕生会	1月	8日	新年会
8月	8日	夏祭り 誕生会	2月	14日	バレンタイン
				19日	豆まき 誕生会
9月	19日	敬老会	3月	5日	ひな祭り 誕生会

《活動報告》

- 1、ご入居者本位のケアを心がけていたが、時間に追われたり欠員時などの時は業務中心のケアもみられた。
- 2、新たな提案が出されることが少なかった。話し合いの場を作り、提案しやすい環境、提案後の実践まで力を入れる必要があった。リーダーが育児休業したこともあり、ユニット会議が定期開催されず、ケアプランをしっかりと認識できていなかったり、職員間でしっかりと話し合いや統一したケアが行えなかった。
- 3、ユニット内の整理整頓、清潔保持に関しては、定期的に行っているものの、隅々まで行き届いているとは言えない状態であった。今後は、ユニット内隅々まで整理整頓、清掃を行ってきたい。
- 4、申し送り事項の伝達もしっかりと行っていた。問題事項が挙がった場合に、話し合いから解決まで取り組めた。

○あだたらユニット

4月	4日	花見	10月	9日	誕生会
5月	15日	母の日 誕生会	11月	6日	秋祭り
6月	19日	父の日 誕生会	12月	25日	クリスマス会
7月	7日	七夕 誕生会	1月	8日	新年会
8月	14日	納涼祭	2月	3日	節分
9月		外出行事	3月	3日	雛祭り

《活動報告》

- 1、明らかに変化のあるご入居者への対応は出来ていたと思うが、判断するのに迷うケースの事象では他業種からの意見徴収のため対応し始めるのが遅れることが目立っていたと思うので、あらかじめ予測される事象を検討しておく準備が必要だった。
- 2、日常の業務優先になってしまい、ほとんど実施出来て無かった。もっと積極性を持ってリーダー中心に各職員に指示を出せば出来ていたと思う。

- 3、ご入居者とのコミュニケーションを取り、その方に合った介護の取り組み自体は出来たと思うが、時間に追われる事が多く十分に出来ていたとは言い難い。
- 4、積極的な勉強会への参加行動が出来なかったように思える。ユニット単位での勉強会の実施をしても良かった。

○ささもりユニット

5月	8日 母の日	10月	30日 紅葉ドライブ
6月	19日 父の日	11月	20日 誕生会
8月	10日 誕生会	12月	11日 誕生会
9月	19日 敬老会	3月	31日 足湯外出

《活動報告》

- 1、環境整備は常に意識していたが、事故が発生してから対策を立てるケースが多かった。予見できる事故もあったため、ユニット会議等を通じて一人ひとりの入居環境整備について話し合いを持ち、事故を減らす工夫が必要だった。
- 2、緊急時の対応マニュアルはあるものの、実際に起きた際に不安を感じるケースの検討を行いシミュレーションを通じて職員の不安を払拭する取組が十分に行えなかった。
- 3、職員同士、疑問に思う事については意見交換出来ていたが、自己研鑽として書籍を購入したり研修に参加するなどの姿は見られなかった。今後はユニットリーダー中心に、職員間で情報共有し、自ら学ぶ環境を作りたい。

○ショートステイ

4月	8日 豆乳ばななプリン 13日 花見ドライブ	10月	12日 おやつレク(芋羊羹)
5月	8日 母の日 13日 揚げない長芋フライ	11月	6日 秋祭り 11日 おやつレク(クッキー)
6月	8日 おやつレク(甘露煮)	12月	
7月	8日 おやつレク(大根餅)	1月	16日 おやつレク(さつま芋)
8月	12日 桃のクリチ	2月	14日 バレンタイン
9月	19日 敬老会	3月	17日 ふきのとう味噌作り

《活動報告》

- 1、毎月5のつく日は「ご飯の日」として調理レクを一緒に行う取り組みを継続したが、夏でも温かい物が好評であったことも有り、25日は鍋の日とした。前年度にご利用された方から「鍋が食べたい」と要望聞かれたこともあり今年度は無理なくごはんの日に組み込むことで対応することが出来た。
- 2、第2週の金曜日は「おやつの日」としてご利用者と季節感のあるおやつを作り、美味しく楽しみのあるレクを行った。
- 3、8月と12月にコロナのクラスターが発生し、新規受入休止やユニット閉鎖を行ったが、その他でも利用開始してから濃厚接触者に該当したケースもあり、対応に終始した1年となった。
- 4、居室で過ごされるご利用者が増えており「皆で集まって…」という行事の実施は少なくなった。個々人に応じたレクや利用中の楽しみを見つけ柔軟に対応していく必要がある。

《看護部門》

○看護活動報告

① 健康状態の把握

他職種と連携し、健康状態の把握と異常の早期発見に努め、異常時に迅速な対応を行い状態悪化の予防に努めた。短期入所ご利用者に関しても、早期の対応にて体調悪化の予防に努めた。

② 定期健康診断

入居者・・・年1回の基本健診 11月実施

職 員・・・年1回の基本健診 1・2月実施

腰痛検査年2回 7月と1月の基本健診時に実施。(夜勤を行う職員と看護職員)

年1回のストレスチェックを実施した。

③ 健康の維持

- ・ 定期、臨時通院の判断をし、他職種の協力を得ながら行った。
- ・ 環境調整の指導を行い、体調の変化に注意し疾病予防に努めた。

④ 感染症対策委員会の活動

教育委員会協力のもと、吐物処理・感染症の勉強会を開催したが、新型コロナウイルスが変化していくため、職員の感染予防に対しての取組みの見直しと、勉強会の内容の再検討は継続して行う必要性が感じられる。

⑤ インフルエンザ予防接種実施・・・11月に実施

⑥ R4年度インフルエンザの罹患者はなく問題とはならなかったものの、新型コロナウイルス予防への対応・対策が主となった。8月と12月にクラスターとなった。コロナ対応を他部門と検証し、反省点と改善点を共有することができた。

⑦ 新型コロナワクチン予防接種（ファイザー）

入所者・・・7月、1月に実施した。

職 員・・・7月、1月に実施した。

⑧ 緊急時の対応

- ・ 消防署の協力を得てレサシアン人形を用いてシミュレーションを行った。
- ・ 個別の医療的な対応について勉強会等を行い再確認する。

⑨ 他医療機関、主治医との協力体制

ご利用者の状態、症状に合わせ主治医や医療機関との連携を図り悪化予防に努めた。

⑩ ターミナルケア

看取り委員会の定期的な開催ができた。今後も看取りに関する勉強会を開催し、職員の意思の統一と積極的な関り、職員主体の看取り介護となるよう努める。

○機能訓練活動報告

① 拘縮予防として関節可動域訓練・ポジショニングの実施と職員へ介助指導を行うことについて

- ・ 上半期は機能訓練2名体制であったため、週3、4回の介入と巡回時の細目な姿勢修正を行っていたことに加え、ポジショニングクッションの作成を迅速に行ったことで、ご利用者の身体負担とならないよう介入することができた。また、ポジショニング写真をユニットに提供し、視覚的に意識してもらえよう伝達を工夫した。

- ・拘縮予防は日々の介助方法が大きく影響しており、機能訓練の介入だけでは効果は少ないため他職の協力が必要であるが、他職種を巻き込む工夫が足りていなかった。
- ・写真を掲示できた反面、手技の難しさや工程の複雑さからなかなか取り組んでもらえる状況ではなかった。

②個別リハビリやレクリエーション活動、気分転換等の機会の提供について

- ・入浴やユニットの介助が重ならない時間帯に計画を組み、定期的な頻度で機能訓練がご利用者に関わる機会や介入ができるようにすることができた。
- ・新たな取り組みとして園芸療法や、レクリエーションのバリエーションを増やせた。
- ・コロナ禍という状況であるが、換気や使用用具・物品の消毒等注意しながら行っていた。
- ・なかなかご利用者から希望の聴取ができず、希望を聞けたとしても施設で実際にできる内容の擦り合わせとご利用者の満足度の高い活動の提供や関わりができていなかった。
- ・園芸療法を試みたが、管理は一部のご利用者が行う形になってしまった。

③食事評価について

- ・機能訓練員だけでなく、他職種立ち合いで評価に入る機会を何回か設けられて良かった。
- ・嚥下状況が気になるご利用者をピックアップし、他職種に発信することで誤嚥の予防対応を行うことができた。
- ・機能訓練員が栄養感委員会に所属することで、食事形態の案などを提言しやすかった。
- ・スマートフォンを使用し食事姿勢や嚥下状況をわかりやすく申し送りすることができた。
- ・医療的な視点と介護の視点で介助のやり方に差ができてしまいやすいところを埋めていく働きかけが足りていなかった。

④環境整備（福祉用具の選定）について

- ・ティルトリクライニング車椅子の導入ができた。
- ・施設にある資源を把握し、利用者様の状態に応じて使用の提案をすることができた。
- ・車椅子や電動ベッドの機能を活かしていない場面を多々目にした。

⑤施設資源として介助用具、レクリエーション用具、余暇活動用品の作製について

- ・前年度同様にストッキネットクッションは手軽に作成できるため良かった。
- ・レクリエーションの道具を増やし、利用者様の認知機能や身体状況に合わせて難易度調整をしながら使用することができた。
- ・実際にユニットでの使用件数はなかったが施設にあるレク道具の紹介(使用方法・目的)を資料にし、リーダー会議にて配布した。
- ・機能訓練介入以外の余暇時間を過ごすための取り組みに力を入れていきたいが、ユニットの余力がないためなかなか難しい状況。

⑥他職員に向けての勉強会の開催について

- ・口腔体操やレクリエーションの効果を簡単にまとめたものをリーダー会議で配布した。
- ・職員の業務多忙により余裕がないことやコロナ状況もあり勉強会の開催が出来なかった。

《栄養部門》

①月に1回程度、旬の食材を取り入れた新メニューの提供を行い、楽しみある食事の提供ができるようにする目標について

- ・厨房スタッフが立案した献立を取り入れることができた。ただし、旬の時期が若干ずれたり不作だった際の食材調達や、計画調理との兼ね合いがあると予め予定していた献立を変更して新メニューを組み込むということに難しさは感じた。

- ②食中毒や感染症、衛生、栄養に関すること等の勉強会を行い、知識の向上に努める目標について
- ・栄養委員会と連動して実施し、疾患に関すること以外にも衛生に関する事項を厨房内の研修ではより多く取り入れていけたらよかった。
- ③より食べやすい嚥下食の構築に向けて、嚥下調整食の分類に準じて独自に段階を設け、きめ細やかな食事内容の調整ができるように努める目標について
- ・ミキサーとろみ食のとろみ具合２段階（２種類）で食形態を確立することができた。
- ④ご利用者の体調や食事摂取の状況を把握し、必要時に栄養介入できるよう他部門と連携を深め、情報を共有して一人ひとりに合わせた栄養ケアの提供に努める目標について
- ・カンファレンスの際に情報の提供と共有、療養食の提供、既往症に合わせた食事の提供等、細やかな個人対応による食事提供に努めた。特に栄養介入の必要性が高いご利用者や食事摂取が難しくなってきたご利用者へは今までのものだけにとらわれることなく、新しいアイデアを取り入れて食事の提供ができるよう、様々な提案ができるように力を入れていきたい。
- ⑤定期的に業務分担や作業工程の見直しを行い、給食業務が安全に効率よく且つ円滑に実施できるよう努める目標について
- ・業務内容や勤務時間の変更、パートタイマーの勤務時間の変更・短縮を実施した。作業工程表を用いて、定期的な作業の見直しの実施を行うことができた。

《会議、各種委員会報告》

○職員全体会（３カ月毎開催）

6月30日	3年度収支報告、道路交通法改正に伴う業務、コロナの接種予定、介護記録、身体拘束・虐待防止研修など	12月27日	資格手当の追加、特定技能外国人、新型コロナクラスター対応の反省について
9月30日	新型コロナ感染状況、特養待機者、技能実習生、諸経費高騰対策について	3月28日	給与規定変更、次年度活動についてなど

○調整会議

4月20日	自己評価の反省と対応、欠勤者が発生した日の援助体制など	10月19日	外国人労働者の就労資格勉強会、職員研修、館内情報共有ツールなど
5月18日	キャリアパス、給食の異物混入対応など	11月16日	人事考課、各種予防接種、コロナ濃厚接触者の定義、年調など
6月15日	決算報告、社保料算定方法変更、職員健診、ショートステイ稼働率、食材費用高騰に伴う献立変更、コロナ濃厚接触者の定義など	12月	新型コロナウイルスクラスター発生に伴い中止
7月20日	技能実習生と特定技能が帰国人、コロナ接種、介護職員休憩スペース、欠勤者発生時の援助体制など	1月18日	次年度計画、コロナウイルス対応と反省、ショートステイ稼働率、非常食、監査関係など

8月17日	新型コロナウイルス感染状況と対策、ご利用者健診、ストレスチェック実施、ショートステイ稼働など	2月15日	面会や外出について、光熱費、特定技能外国人の就労など
9月21日	新型コロナクラスターの反省、インフルエンザ予防接種、道路交通法改正点など	3月15日	次年度計画、面会や外出について、ショートステイ稼働率など

○ユニットリーダー会議

4月7日	各種委員会報告、職員面談、介護員繋ぎ当番制、シフト作成ソフトなど	10月6日	新型コロナ館内発生の対応と反省、各種情報共有など
5月5日	自己評価反省、中途採用者の研修、職員の定着、急変時のオンコール体制など	11月3日	各種予防接種、技能実習生の在留資格変更、新たに採用する外国人の配属先、各種情報共有など
6月2日	各種委員会報告、接遇改善提案、新型コロナ発生時の職員昼食など	12月1日	人事考課、各種情報共有など
7月7日	各種委員会報告、各種情報共有など	1月5日	夜勤明けの業務引継ぎ、コロナの反省と濃厚接触者の定義、情報共有など
8月4日	各種委員会報告、各種情報共有など	2月2日	次年度計画、新型コロナ対応反省、各種情報共有など
9月	新型コロナクラスター発生のため休止	3月2日	新型コロナ対応緩和、外国人介護員の指導、各種情報共有など

○教育委員会

- ・書籍（月間デイ、レクリエ、ブリコラージュ）を購入。
月刊デイは過去2年分を保管し、それ以前の書籍は職員が自由に利用できるようにした。
- ・コロナ禍でも密にならずに学べる方法、業務に支障が出ない様に短時間で学べる方法を模索。
- ・コロナ禍で対面講義が難しいため、施設の状況を講師に伝え必要な知識を習得できるよう新たな試みとして介助している場面の動画を撮影し、勉強会の資料に利用した。
実際の介助のフィードバックをもらい、イメージしやすかったかもしれないが移乗研修のような技術習得のための講義は実技形式が良いとの意見が上がった。
- ・コロナ感染拡大防止のため予定していた研修の半分为延期・中止になってしまった。コロナ禍でいかに学びを得られる方法があるか検討し、臨機応変に対応していきたい。
- ・施設における当委員会の活動や役割が曖昧との意見が上がった。研修環境を整える以外にも委員会としての役割やあり方を見直す必要がある。

○感染・褥瘡予防委員会

- ・常にご利用者の状態を把握し、コロナ禍の影響はあったが異常の早期発見・対応ができた。
- ・機能訓練士の委員会参加により、ポジショニングや体交クッション利用での除圧指導あり予防に繋がった。
- ・褥瘡治癒後の再発予防では、栄養状態改善の高カロリー補助食品摂取で再発予防できた。
- ・コロナ発生時は各自居室で過ごして頂いたため、リビングで長時間車椅子で過ごすことが減り、仙骨部への除圧になり褥瘡改善した方がいた。

○自己評価委員会

12月に福島県第三者評価基準を基に評価する予定だったが、新型コロナのクラスターが発生したことで中止した。改善については前年度の資料を基に調整委員会にて具体的な改善提案を検討することとした。

○事故防止、身体拘束防止委員会

- ・定期的に会議等で手順の確認と検討を行い事故削減に努めたが、誤薬、服薬ミスが複数回発生してしまった。
- ・福祉用具点検項目に従い、定期チェックを行った。
- ・事件事例を分析し、再発防止と予防啓発に努めた。
- ・前年度より事故件数を減少させられた。虐待防止研修を職員参加型で開催したことは好評だった。

○栄養管理委員会

- ・献立によって食事形態を決めたり、提供方法検討を行い、安全で食べやすい食事の提供ができるよう話し合いがなされた。
- ・行事食の内容や提供方法について確認を行い、いつもと違う食事の際にもユニットでスムーズな食事配膳ができるよう、連携を密にし、行事食でも大きな混乱なく食事提供を行うことができた。
- ・勉強会を委員の変更や代役として参加せざるを得ない場合に、予定していた勉強会の実施が難しいことがあったが、それ以外についてはそれぞれの視点から資料を準備し、様々な内容での勉強会の実施を行うことができた。
- ・現在の配膳方法や厨房業務について定期的に見直しを行い、円滑に給食業務が行われるように努めた。

○行事委員会

- ・昨年に引き続きコロナの影響で外出等の催しを行う事が出来なかったが、少ないながらも各委員が協力して感染予防と参加型の行事を両立することができた。
- ・行事がマンネリ化してきているため、各ユニットでの取組を参考にする意見が出た。

○看取り委員会

- ・常時10人以上の対象者を抱え、コロナの影響により面会制限を行うなか、看取り者に関し、ご家族の意向に添え、納得のいくよう説明や相談の機会を多く設け、安心して最期を迎えられるよう不安の軽減に努めた。
- ・ケアカンファレンスを通じ介護計画を基に、職員間の情報共有を行った。

○業務改善委員会

- ・年度始めに業務標準マニュアルの更新と施設内の業務改善案アンケートの集計を行い、様々な改善案が提示されたが、改善には至らなかった件が多く、完全解決には至らなかった。今後も改善案アンケートは継続して行っていきたい。
- ・改善案ででたユニット業務マニュアル作成について、一部のユニットのみとなってしまった。
- ・10月より名前未記入衣類置き場を設置したが、置かれた衣類の6～7割程は持ち主不明となってしまう。来年度も様子を見ながら継続していく。
- ・業務標準マニュアルの更新については文字情報のみでなく介助手順や介助風景のイラストや写真を用い、分かりやすいマニュアルとして更新することができたが、機械浴、リフト浴の

- マニュアル完成には至らなかった。専門性、介護性の高いマニュアルを作る事で自らの介護の見直しや新人職員の教育、業務改善へとつながる事が期待されるので今後も続けていく。
- ・リネン発注忘れが見受けられた。改めて担当職員は責任を持って取り掛かり、職員間でお互いカバーしフォローしていきたい。
 - ・オムツ発注先変更あったが大きな混乱もなく変更実施する事が出来た。

○衛生委員会

- ・全ての職種が働き易いと感じられる環境を作る意見交換
- ・定期健康診断やストレスチェックの結果について意見交換して職場環境改善に努めた。
- ・新型コロナウイルスの情報をいち早く周知し、感染拡大に努めた。
- ・職場環境の適正化を継続するため、①健康診断結果の所見ワースト3位までの研修②食中毒③職場の温度管理④睡眠時無呼吸症候群⑤労災事故⑥結核について研修を行った。

○安全委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため研修は行わず、看護師による実地指導を適時行うことで安全な吸引実施に努めた。

《研修実績》

月	外部講師研修	施設内研修
4月	チームケアについて	使い捨て手袋について
5月		アルコール除菌勉強会
6月	食事介助手技	身体拘束・虐待予防研修、食中毒・アニサキスについて
8月		カビについて
9月		口から食べるということ
10月	トロミ剤研修	ノロウイルスとコロナウイルスの違い
11月	移乗動作研修	冬に多い食中毒
12月		身体拘束・虐待予防勉強会
1月		感染予防について
2月	整理整頓方法	食事配膳方法
3月		人権コンプライアンス研修 機能訓練勉強会

《ボランティア受入・地域行事・施設行事》

※受入れや行事は新型コロナウイルス感染防止の為に大部分が自粛

月	ボランティア	地域行事	施設行事
9月			19日 敬老会
12月		2～4日 福祉作品展	

《行事食実績》

5月	5日 端午の節句	12月	22日 冬至（かぼちゃ） 25日 クリスマスメニュー 31日 年越しメニュー
6月	11日 非常時の献立 24日 おはぎの日	1月	1～2日 正月おせち料理 3日 三日とろろ 15日 小正月
7月	7日 七夕メニュー	2月	3日 節分 14日 バレンタイン献立
8月	13日～15日 お盆メニュー	3月	3日 ひな祭り 21日 春分の日（ぼたもち） 31日 お花見弁当
9月	19日 敬老会お祝い膳 23日 秋分の日メニュー		
10月	7日 みず和の郷開設記念メニュー		
11月	6日 芋煮		

《居宅介護支援事業所》

- ・暮らしの継続を目標に、医療機関、介護サービス事業者等の多職種連携を図ることができた。
- ・依頼のあった新規利用者については特別な事情がない限り受け入れ対応することができた。
- ・2月の実施指導への対応、ケアプラン自主点検の実施により質の向上を図ることができた。
- ・地域ケア会議へ参加し、地域の他事業所と関係構築、連携を図った。
- ・ケアプランの作成及びモニタリングによる継続支援に努めた。
- ・介護保険に関する代行申請、住宅改修等書類の作成代行申請実施。市町村資料を提供し説明を行った。

《利用者実績報告》

	居宅サービス 作成依頼件数	要介護区分				
		1	2	3	4	5
4月	28	8	10	4	3	3
5月	30	10	10	4	3	3
6月	34	14	8	4	3	5
7月	36	16	8	5	3	4
8月	39	18	8	5	4	4
9月	39	18	8	4	4	5
10月	35	18	8	4	1	4
11月	31	18	7	3	0	3
12月	34	19	7	4	1	3
1月	33	19	6	5	1	2
2月	33	18	6	6	1	2
3月	33	18	6	5	1	3
合計	405	194	92	53	25	41
昨年合計値	84	28	21	8	13	14

《資質向上のための会議参加・外部研修等》

実施月	場所（方法）	参加者名	研修内容
11 月	オンライン研修	管理者	認定調査 e ラーニング
5 月	松川支所	管理者	地域ケア会議 事例検討（他事業所事例提供）
3 月	オンライン研修	管理者	市町村研修
	松川支所	管理者	地域ケア会議 「障害福祉サービス、精神障がい病気の理解」 福島市保健福祉部 障がい福祉課自立支援係